

横浜美術館の指定管理者の指定について

1 指定する施設及び指定候補者等

施設名	横浜美術館
指定候補者	公益財団法人横浜市芸術文化振興財団 理事長 澄川喜一 横浜市中区北仲通 4 丁目 40 番地
選定の方法	非公募
指定期間	平成 25 年 4 月 1 日～平成 35 年 3 月 31 日（10 年）

2 「横浜美術館」における指定管理

(1) 財団を非公募で選定した理由

本施設は、専門文化施設としてのポテンシャルを十分に発揮し、発信性の高い事業を展開することが期待されるなど、本市施策と連動した運営や、芸術家とのネットワークの構築など高度な専門性が求められる施設です。

公益財団法人横浜市芸術文化振興財団（以下、財団）は、その前身の 1 つである財団法人横浜市美術振興財団として、設立当初から横浜美術館の運営に携わってきており、高度な専門性や芸術家・所蔵家を含む美術関係者とのネットワークなどの蓄積があることから、指定候補者として非公募で選定しました。

(2) 指定期間を 10 年とする理由

準備に 5 年程度を必要とする国際的な展覧会の実施や、横浜を代表する文化施設を担う人材の長期的な育成を実現するため、指定期間を 10 年とします。

3 「横浜美術館指定管理者選定評価委員会」における審査

(1) 横浜美術館指定管理者選定評価委員会

外部の有識者で構成する「横浜美術館指定管理者選定評価委員会」を設置し、事業計画について審査を受けました。

委員長 岸川 善光 （横浜市立大学 副学長（経営戦略・経営管理））
委員 酒井 忠康 （世田谷美術館 館長）
委員 西田 由紀子（よこはま市民メセナ協会 会長）
委員 村井 良子 （(有)プランニング・ラボ 代表取締役）
委員 吉本 光宏 （(株)ニッセイ基礎研究所 芸術文化プロジェクト室長）

(2) 開催実績

	回数	開催日	主な内容
横浜美術館 指定管理 評議委員会	第1回	平成23年7月25日(月)	選定方針の確認
	第2回	平成24年1月17日(火)	第1次審査(プレゼンテーション)
	第3回	平成24年3月30日(金)	第2次審査(指摘事項への対応確認)
横浜美術館 指定管理者 選定評価委員会	第1回	平成24年7月2日(月)	第3次審査(指摘事項への対応確認)
	第2回	平成24年9月25日(火)	第4次審査(事業計画の承認)

「横浜美術館指定管理評議委員会」は平成24年4月1日付で条例に基づく附属機関となったため、「横浜美術館指定管理者選定評価委員会」に名称を変更しました。

(3) 事業計画の審査

ア 事業計画書

本市との協議をふまえ、財団が指定管理にあたっての考え方や10年間の長期計画、当初3か年の中期的な計画(事業、施設管理、収支等)を示した事業計画書を作成し(概要は別紙のとおり)、指定管理者選定評価委員会の審査を受けました。

イ 主な評価及び意見

- ・ 事業計画書は、全体として現実的であり適切な内容であると評価できる。
- ・ 毎年の評価をもとに適切な振り返りを行い、PDCAサイクルを生かした運営を実施するなど、常に改善に取り組んでいただきたい。
- ・ 横浜トリエンナーレ以外にも、たとえば「現代美術に強い」といった横浜美術館の強みを踏まえた展開を図るなど、世界各地の人々が来訪するように取り組んでいただきたい。
- ・ 市の文化戦略を踏まえ、美術館からも市に対して活発な事業を提案できれば、より効果的ではないか。
- ・ 職員一人一人が、改めて事業計画書に掲げられた美術館の使命、社会的役割、長期目標等を意識して、日々の業務に取り組んでいただきたい。

ウ 審査結果

10年間の事業計画書の内容について、全員一致で「承認」されました。

4 指定管理開始後の継続した評価

- ・ 指定管理開始後も指定管理者選定評価委員会による指定管理者の外部評価を毎年度実施します。これに加え、3年ごとに策定する中期的な計画を審査し助言します。
- ・ 指定管理者に対する継続的な外部評価・審査・助言により、指定期間中の運営水準を確保します。

横浜美術館 第2期指定期間における事業計画について

指定管理にあたっての基本的考え方と長期計画（10年）・経営理念
- 『国際都市横浜にふさわしい世界に開かれた美術館』を目指して -

横浜美術館の目指す姿

市民の誰もが美術に親しみ、多くの市民に「観る」「創る」「学ぶ」機会を提供することにより、市民の創造性を育み、心豊かで活力に満ちた生活の実現に貢献する美術館

世界各国の美術館や美術館関係者などのネットワークの強化や国際交流を促進するとともに、横浜独自の魅力的で質の高い美術文化を国内外に発信することにより、国際都市横浜の魅力とアイデンティティの確立に貢献する美術館

市民、学校、NPO、企業等の様々な立場や年代、属性を持つ人々と協働することにより、市民から親しまれ、市民が集う、地域に開かれた美術館

未来を担う子どもたちの創造性を育むため、地域の学校や大学などと連携した取り組みを進め、文化芸術教育の中心的な役割を担う美術館

教育プログラムの強化

若手アーティストの創作支援
国内外の美術館にコレクションを活用した展覧会を有料でオファー
コレクションを活用した展覧会を企画展として実施

鑑賞教育専任人材の起用

鑑賞普及と教育普及 専門人材育成

多様な鑑賞サポートの場の構築

コレクション鑑賞サポートをレギュラーサービス化、ツールの開発
子どもたちへの鑑賞サポート
子どものアトリエ 市民のアトリエ

営業力の強化

横浜美術館ならではのユニークな商品提供、オンラインショップへのアクセス拡大 展覧会連携メニュー開発

企業との連携

企業連携、横浜市の都市戦略と連携した事業を展開して賑わいを創出し文化観光政策に貢献

マスメディアと共催する企画展への提言と実施

学芸員の企画による展覧会をマスメディアに提案、実施

来館者サービスの充実

ホスピタリティ、アメニティ、来場者コミュニケーション、アクセシビリティの向上

ショップやカフェの付加価値向上

市民とつながるプログラムの強化

多彩な市民力を取り込む美術館活動の強化

美術館アクセス・鑑賞サポート事業（視覚に障がいのある方との鑑賞ワークショップ、関連団体等と連携したコレクション鑑賞サポート事業）

美術館活動を支える市民のプラットフォームづくり

横浜美術館コレクション・フレンズ 推進、協力会との連携

各種社会貢献事業、ビジターサービス機能

地域社会や市民生活へ貢献する事業

ミュージアム・エデュケーションと市民協働

市民団体「原三渓市民研究会」等と共同研究

「おもてなしの心」を具現化するために市民の経験を活用

横浜シティガイド協会などと連携し横浜全体を楽しんでいただけるサービスを提供

即戦力の強化

現代美術を専門とする人材補強

次世代人材の育成

企画展事前レクチャー、ホスピタリティ研修実施

経営基盤と人材の強化

館全体のマネジメント体制

マスメディア共催の企画展開催、ショップ・カフェ充実、駐車場割引サービス等による利用促進

自主財源の確保・開拓

ファンドレイジング

Heart to Art、横浜美術館コレクション・フレンズの推進

発信力の強化

広報の充実

広報・連携体制の充実・強化、広報マーケティングの再構築と強化

海外との連携

企画展の海外巡回

横浜トリエンナーレへの取り組み

ヨコハマトリエンナーレ2014

中期計画（第1期 / 平成25年度～27年度（長期計画達成に向けた始動と基盤整備））

横浜トリエンナーレの継続開催を契機に、アジアを中心とする海外との交流を拡大します。独自制作の企画展の海外巡回、海外からのインターン研修生受け入れ、ホームページの多言語化等による中国、韓国、台湾などアジアからの観光客および、海外の美術専門家の来訪を誘致します。また、教育普及グループを設置し、鑑賞教育の強化に着手します。

- 経営について
 - 横浜市の都市戦略である創造都市形成やシティセールス、観光プロモーションと連携した事業の展開
 - コンベンション誘致に協力したレセプション会場としての活用
 - 特色ある概観を活用したフィルム・コミッションへの協力
 - 近隣在住・在勤者とのコミュニケーション強化やウェブマガジン、オンラインショッピングなどを通じた広報・マーケティングの再構築と強化
- 事業について
 - 独創性、地域性、発信性、経営的な観点を踏まえ、バラエティに富んだ企画展を実施
 - 集客が期待でき、学芸的な知見に基づく魅力的な企画案をマスメディアに提案
 - ヨコハマトリエンナーレ2014の準備、実施への全館体制での取組
 - 横浜の美術の歴史を伝える作品や話題性のある現代美術作品の収集を提案
 - コレクションによるパッケージ展の立案、他の美術館での開催オファー
 - 若手アーティストを講師とするワークショップの開催
 - 病院へのアウトリーチ：地域の病院と連携して病院でのワークショップにふさわしいプログラムを作成・実施
- 施設運営について
 - 簡単に利用できるガイドシステムやキャプションガイドなど鑑賞サポートツールの開発
 - 桜木町およびみなとみらい駅から美術館までわかりやすいサイン計画を実施
 - 大規模改修に向けた検討
- その他（市との協働・外部評価）
 - 事業計画立案から運営までの横浜市との協働（政策経営協議会）
 - 指定管理者選定評価委員会（外部委員会）による評価を毎年度実施
- 組織について
 - 副館長の設置：美術館の財政や組織に関するマネジメント、企業・団体・行政との折衝について館長を補佐
 - 職員の意欲や能力、実績の適正評価を行う目標管理を加えた新たな人事評価制度の実施
- 収支計画
 - 営業活動を中心とした協賛金・助成金などの外部資金の増収を目指した財源の確保（ファンドレイジング）

【参考】3か年の企画展案

企画展		
季節	会期	
平成25年		
春	4月～6月	Negotiating Home, History and Nation(仮称) シンガポール・アート・ミュージアムが企画し、東南アジア諸国や地域(例えば、カンボジア、インドネシア、マレーシア、ミャンマー、フィリピン、ベトナム、タイなど)の近年の社会的・政治的問題を主題にした東南アジアの作家の現代美術を取り上げる展覧会。
	7月～9月	プーシキン美術館展 フランス絵画300年 ロシアのプーシキン美術館が所蔵するコレクションで構成されるフランス絵画の展覧会。17世紀古典主義の巨匠ブッサンにはじまり、18世紀ロココを代表するプーシェ、新古典主義の確立者ダヴィッドを経て、フランス革命後に活躍したアングル、ドラクロワ、ミレーへ続く流れを日本初公開作品を中心に厳選します。
秋	10月～11月	岡倉天心生誕150年・没後100年記念 横山大観展 良き師一紫紅、未醒、芋銭、溪仙(仮称) 横山大観記念館の協力のもと、同館学芸員と共同で調査研究を進めその成果を企画展とするもの。大正時代に焦点を当て、大観が日頃親しく交わった個性豊かな画家たちとの相互関係に着目することで、大観の明治時代には見られなかった新感覚溢れる作品が生み出された背景を探りその魅力を伝えます。
冬	12月～2月	岡倉天心生誕150年・没後100年記念 生誕140年記念 下村観山展(仮称) 横浜ゆかりの日本画家・下村観山の生誕140年を記念して、回顧展を開催します。本展では概ね(1)幼年期の修行(2)東京美術学校(3)初期日本美術院(4)ヨーロッパ留学と文展(五浦時代)(5)再興日本美術院、の構成で観山の画業を回顧します。
平成26年		
春		アメリカン・ジャポニズムの工芸(仮称)
夏・秋		ヨコハマトリエンナーレ2014
冬		19世紀絵画展(仮称)
平成27年		
春		映像作家個展(仮称)
夏		印象派の女性画家(仮称)
秋		クルト・「メルツ」・シュッピッターズ展ー拡張するマイ・ワールドー(仮称)
冬		日本写真史ー横浜から、未来へ <又は> 有島生馬展 (仮称)